

沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会議事録（平成22年度 第3回）

1. 開催日時：平成23年 3月 9日（水）10：00～11：00

2. 場 所：那覇第2地方合同庁舎2号館 6階 特別会議室

3. 出席者：○委員 有住 康則 琉球大学工学部教授
大城 勇夫 沖縄経済同友会代表幹事（株）琉球銀行頭取
立原 一憲 琉球大学理学部准教授
前泊 博盛 琉球新報社 論説委員長

（敬称略：五十音順）

○沖縄総合事務局 次長、開発建設部長、企画調整官、技術管理官、
港湾空港指導官、公園まちづくり調整官、営繕調査官
ほか

4. 事務局説明：対象事業説明

○再評価事業：3件

平成22年11月、各分野の将来交通需要推計手法の改善等を公表し、平成23年度
予算に向けた、個別公共事業の評価を改めて実施した。（以下総点検）

①総点検の結果、費用対効果が1.0を下回る事業について、事業継続の可否の再
評価を実施。

②防災対策及び交通の安全・安心等に資する防災事業について、事業目的に応じた
評価を実施。

5. 審議

【再評価】

●一般国道58号那覇西道路

（審議結果）

・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

（審議内容）

【委員】ネットワークで想定されていた道路をバラバラに評価することに意味がない。道路はつながってこそ役割が果たせるのであって、それが、途中で評価するのはおかしい。ネットワークが完成した時のB/Cはどうか？、繋がっていく途中段階のB/Cはどうか？というのがあって、単体で整備したときのB/Cが0.2というのであればいいと思う。せめて完成段階での評価については残した形でお願いしたい。

【事務局】ネットワークを全く考えないで評価している訳ではなくて、今事業化しているものだけをネットワークに入れるということで、その考えとしては、決まっていないものを将来のネットワークに入れるのはおかしいのではということ。ただ、委員の意見はしっかりと本省へ伝える。

【委員】事業の進捗が進んでいれば当然事業継続になると思うが、一番最初に見直す時（事業を始めてから3年）は、事業の進捗は見込めず、（残事業B/Cも低い場合は、）今の評価手法では適切な判断が難しくなる。短期間での進捗が進まない時にどうするか？という議論が必要。事業継続という判断が難しくなる。

【委員】始まってすぐの事業についても同じ評価を行うのか？

【委員】B/Cの意味がなくなるのではないか？

【事務局】今の手法だと事業区間の細分化はできずに、沖縄であれば、西海岸道路を一発で事業化すると（B/Cは1を超えるため、）このような話は出てこなくなる。投資限度額の議論になる。皆様の意見は今の評価手法だとここがおかしいということで報告したい。

【委員】ネットワークそのものをどう評価するかという議論ができるようお願いしたい。

【委員長】事業採択時にこの手法が用いられたら箇所によっては、新規事業化の採択が厳しい箇所も考えられる。

（ネットワークを踏まえた事業の効果を適切に評価できる様）ある程度はネットワークを認めて、事業の部分ごとを年度ごとに評価する手法に修正してほしい。

●一般国道331号中山改良

（審議結果）

・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

（審議内容）

【委員】災害箇所を表している図があるが、中山改良の箇所に集中しているということか？その他の箇所は被災していないのか？

【事務局】中山改良区間の被災箇所を落としたもので、区間外については全く災害が起きていないということではない。

【委員】区間外を図に落としたときに当該区間の被災箇所が多いということはしめせるのか？

【事務局】中山改良の区間は突出して災害箇所が多い。

【委員】コスト縮減のところで工法を変えることによるデメリットはなにか？

【事務局】公共構造物を造る際に堅い構造物で造るのが従来の考え方であったが、新工法を用いることでコストのメリットがあったので採用している。

【委員】強度的にデメリットはないのか？

【事務局】強度的には問題ない。

【委員】コスト縮減によって維持管理費がかかってしまうことはないか？

【事務局】補強土壁工法は最近多く用いられており、特にコストがかかることはない。

【委員】当該区間もネットワークを形成する区間であるから、ライフラインとしての国道の位置づけの中で一部にでも危険地帯があってはならないこと。ライフラインとしての評価の数値をどうしていくのか？危険地帯については人の命に係わる部分を事業評価でどうカウントするのが知りたい。

【事務局】災害で人が亡くなるという設定はない。被災した場合にどのくらい迂回するかというのは入っている。救急車が通る場合時間短縮による救命効果を那覇西道路では算出している。

【委員】崩れる可能性があるということでの整備なので、人命に関して評価手法を検討してほしい。

【委員長】前回の再評価委員会で防災面についても評価項目に加えてほしいと意見をだしたが、防災事業の評価方法を目に見えるような指標で示してほしい。

●一般国道329号宜野座改良

（審議結果）

・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

（審議内容）

【委員】新しいバイパスを造る時に旧道の整備をどうするのかというお願いをしたが、旧道の危険な箇所があれば同じ事業費の中で整備ができないか？

旧道の再開発、危険防止を含めて事業評価の中でも評価できる手法を検討してほしい。

【事務局】旧道の扱いについては移管する前に地方公共団体と協議の上必要な手当てをしている。別事業で行っているためB/Cの計算の中には現在入っていない。

●全体

【委員長】供用及び事業化済みの個所で構成されたネットワークによる推計では、新規事業や3年未着工等の残事業が大きい事業は、全体の道路計画に必要道路でも、事業継続ができなくなる。適切なネットワークで評価できるように提案してほしい。防災事業などの目的に応じた評価手法を検討確立すべきである。